

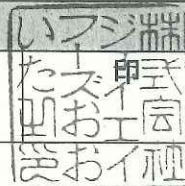
環境省・オフセット・クレジット(J-VER)制度認証委員会 御中
(事務局:気候変動対策認証センター)

平成 25年 2月 22日

温室効果ガス排出削減・吸収量認証依頼書

オフセット・クレジット(J-VER)制度における検証が終了しましたので、利用約款記載のダブルカウントを回避するための措置を適切に執り行うことを誓約のうえ、下記の温室効果ガス排出削減・吸収量の認証を依頼いたします。

プロジェクト名			
大分県 JA フーズ大分ポイラ更新による CO2 削減計画			
【依頼者】 プロジェクト代表事業者			
事業者名(フリガナ)	カブシキカイシャジェイエイフーズオオイタ 株式会社ジェイエイフーズおおいた		
住所	大分県杵築市大字本庄1453番地の1		
代表者氏名	長野 博文	代表者役職	代表取締役社長
担当者氏名	木元 太一	担当者 所属部署・役職	製造部 環境施設課 課長
担当者 E-mail	t_kimoto@jafoods-oita.co.jp	担当者電話番号	0978-63-6505
プロジェクト事業者・プロジェクト参加者			
プロジェクト事業者名	株式会社ジェイエイフーズおおいた		
プロジェクト参加者名	同上		
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者			
事業者名(フリガナ)	株式会社ジェイエイフーズおおいた		
妥当性確認・検証機関			
妥当性確認機関名	ペリージョンソンレジストラー クリーンディベロップメントメカニズム(株)(PJR GDM)		
検証機関名	ビューローベリタスジャパン株式会社		



プロジェクト情報											
プロジェクト登録番号 (4 ケタ)	0123										
プロジェクト登録日	H23/6/30										
プロジェクト概要 ¹	<p>(具体的な内容を簡潔に記載すること。)</p> <p>【プロジェクトの目的・内容】</p> <p>【目的】 従来使用していたシステムの一部を高効率の小型貫流ボイラー5台に更新することにより、燃料(A重油)の使用量を削減し、CO2排出量を削減する。</p> <p>【内容】 当社の工場では、貫流2tボイラー8台(A重油焚き)と炉筒煙管10tボイラー1台(A重油焚き)をヘッダー連結して蒸気需要をまかなっていた。 今回、炉筒煙管10tボイラー(ヒラカワ社製平成18年導入)を高効率の小型貫流ボイラー2t5台と更新する事により燃料消費を抑えCO2排出量を削減した。</p> <p>【適格性基準との整合性】 高効率ボイラーへの更新によりCO2の削減をし、自家で使用するものである。老朽化、故障による更新ではない。投資回収年も3年以上であり的確性基準の条件1~4をすべて満たした。</p> <p>【法令遵守状況】 大気汚染防止法・消防法に従って測定、届出を実施した。 結果は法令基準値内であり法令遵守した。</p> <p>【採用技術】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機器名</th> <th>メーカー名・型式</th> <th>耐用年数</th> <th>導入時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型貫流ボイラー(2t)5台 1254KW×5</td> <td>I H I K 2 O O O L E 型</td> <td>10年</td> <td>2011年3月</td> <td>各種の野菜・果物の搾汁や、それらを使用した飲料の製造に使用</td> </tr> </tbody> </table> <p>【モニタリング方法】 J-VER 制度のモニタリング方法ガイドラインのモニタリングパターンに基づき各ポイントの購入量、在庫量、及び実測値を年1回以上測定し的確なモニタリングを実施した。</p>	機器名	メーカー名・型式	耐用年数	導入時期	備考	小型貫流ボイラー(2t)5台 1254KW×5	I H I K 2 O O O L E 型	10年	2011年3月	各種の野菜・果物の搾汁や、それらを使用した飲料の製造に使用
	機器名	メーカー名・型式	耐用年数	導入時期	備考						
小型貫流ボイラー(2t)5台 1254KW×5	I H I K 2 O O O L E 型	10年	2011年3月	各種の野菜・果物の搾汁や、それらを使用した飲料の製造に使用							

¹ プロジェクト概要はプロジェクトの目的・内容の他、適格性基準との整合性・法令遵守状況・採用技術・モニタリング方法・GHG 算定式の方法論への準拠性・モニタリング体制・QA / QC 体制等に関することを3ページ以内で具体的に記述してください。登録時から変更がなければ登録時と同内容を、登録時から変更がある場合は相違点を具体的に記述してください。

		<p>【GHG 算定式の方法論への準拠性】 ガイドラインに全て準拠した算定式を採用した。</p> <p>【モニタリング体制】 代表取締役社長を統括責任者としデータの報告をし、取締役管理部長を内部監査役としデータ審査を実施、環境施設課課長をプロジェクト事務局長とし日時のデータを保管・管理を実施した。</p> <p>【QA / QC 体制】 プロジェクト事務局が教育・訓練・情報の保管・データの確認・測定機器の維持・管理を日々の確に行い、内部監査役がこれを定期的に審査・監査を実施した。</p> <p>(その他特筆すべき事項)</p>					
モニタリング結果概要 ²		<p><input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト計画に基づきプロジェクトを実施した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> モニタリング計画書に基づきモニタリングを実施した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> モニタリング方法ガイドライン・方法論に準拠した GHG 算定を行った。</p> <p>(その他特筆すべき事項)</p>					
適用モニタリング方法 ガイドライン		<p align="center"><u>オフセット・クレジット(J-VER)制度モニタリング方法ガイドライン</u> (排出量削減プロジェクト用) ver4.0</p>					
適用方法論		方法論番号		E011 ver2.2			
		方法論名称		ボイラー装置の更新・燃料転換			
モニタリング結果							
モニタリング期間		2011年 4月 1日～ 2012年 3月 31日					
<方法論R001・R002・R003のみ> モニタリング対象面積							
排出削減・ 吸収量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2				204		204
認証依頼削減・吸収量		204 t-CO2 ³					

² モニタリング概要は、モニタリング方法において特筆すべき事項があれば記入してください。

³ 合計の値から小数点以下を切り捨て、トン単位で記載してください。

ダブルカウントの防止の措置	
ダブルカウントの防止の措置を講ずる事業者	<p>【ダブルカウント防止措置を講ずる事業者名】</p> <p>事業者名： <u>株式会社ジェイエイフーズおおいた</u></p>
ダブルカウントの防止措置内容	<p>以下、該当する場合は、□に✓を入れ、必要に応じて詳細を記入してください。 (オフセット・クレジット(J-VER)制度実施規則 1.4「クレジットの二重使用」参照)</p> <p>【①類似制度に基づく二重認証に関するダブルカウントの防止措置】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 類似制度へ申請しておらず、当該プロジェクトにおいて確保された削減量・吸収量については、オフセット・クレジット(J-VER)制度以外の制度によって、当該プロジェクトに付随する温室効果ガス削減・吸収という環境に関わる付加価値(以下、「環境価値」という。)の認証を取得しません。</p> <p><input type="checkbox"/> 以下の類似制度(「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法を含む)に申請しています</p> <p style="padding-left: 40px;">類似制度名： _____</p> <p><input type="checkbox"/> 当該プロジェクトにおいて確保された削減量・吸収量については、オフセット・クレジット(J-VER)制度以外の制度によって、当該プロジェクトに付随する環境価値の認証を取得しておらず、今後も取得しません。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該プロジェクトにおいて確保された削減量・吸収量については、オフセット・クレジット(J-VER)制度以外の制度によって、当該プロジェクトに付随する環境価値の認証を取得しているため、その分を控除いたします。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該プロジェクトにおいて確保された削減量・吸収量については、オフセット・クレジット(J-VER)制度以外の制度によって、当該プロジェクトに付随する環境価値の認証を取得していますが、以下の理由によりダブルカウントが生じていないことを証明します。</p> <p style="padding-left: 40px;">理由： _____</p> <p>【②第三者に環境価値を移転する際のダブルカウントの防止措置】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該プロジェクトにより生み出されたエネルギー等(電気、バイオガス等)を第三者に売却する際に、その売却先に対して、環境に関わる付加価値はクレジット化されており、当該エネルギー等の価値には付随していないこと、及び、当該エネルギー等の価値の帰属先と、環境に関わる付加価値の帰属先が異なることを明示する「説明文書」を作成して、売却先に示します。</p> <p><input type="checkbox"/> 森林管理プロジェクトの場合、当該プロジェクトの対象となった森林を第三者に譲渡する際に、その譲渡先に対して、環境価値はクレジット化されており、当該森林には付随していないこと、及び、当該森林の所有権の帰属先と、環境価値の帰属先が異なることを明示する説明文書を作成して譲渡先に示します。あわせて、当該森林の譲渡の際には、オフセット・クレジット(J-VER)制度利用約款森林管理プロジェクト特約の内容にも十分に留意します。</p> <p>※第三者が、当該プロジェクトから生じる環境に関わる付加価値がオフセットクレジット(J-VER)として使用されていることを知らずに、当該付加価値を二重に主張することを防ぐ必要があるため、妥当性確認時において、これらの防止措置が講じられる体制にあること(上記の「説明文書」の作成等)を確認する必要がある。</p>

【③自主的な報告・公表を実施する際のダブルカウントの防止措置】

以下の自主的な報告・公表媒体において、当該プロジェクトの内容、当該クレジットの発行量及び当該クレジット発行量のうち当事業者が無効化したクレジット量（環境価値を他者に譲渡していないもの）を明記します。

あわせて、当該プロジェクトにおいて発行されたクレジット量については、環境価値の帰属を主張しません。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量（環境価値を他者に譲渡していないもの）については除きます。

ホームページ

ホームページ URL: _____

出版物（環境報告書/定期刊行物）

その他 具体的に: _____

現在は、自主的な報告・公表を実施していないが、今後実施するにあたっては、当該プロジェクトにおいて発行されたクレジットについては、環境価値の帰属を主張しません。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量（環境価値を他者に譲渡していないもの）については除きます。

【④公的な報告・公表制度におけるダブルカウントの防止措置】

公的な報告・公表制度には参加していません。

以下の公的な報告・公表制度に参加しています

地球温暖化対策推進法に基づく算定・報告・公表制度の対象者である。

地球温暖化対策推進法に基づく地方公共団体実行計画（区域施策）の策定義務対象者（都道府県）である。

「排出量取引の国内統合市場の試行的実施」参加事業者である。

地方公共団体が実施する以下の制度の対象事業者である。

制度名: _____

その他

具体的に: _____

当該報告・公表制度等において、当該プロジェクトにより発行されたクレジット量については排出量とみなし報告します。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量（環境価値を他者に譲渡していないもの）は除きます。

当該報告・公表制度等において、当該プロジェクトにより発行されたクレジット量について報告する必要はないため、クレジット発行量については排出量とみなし、当該報告・公表制度の報告様式における適切な備考欄に記載します。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量（環境価値を他者に譲渡していないもの）は除きます。

当該報告・公表制度等において、当該プロジェクトにより発行されたクレジット量について報告する必要はないため、クレジット発行量については排出量とみなし、自主的な報告・公表値において報告します。ただし、当事業者による自らの為に無効化したクレジット量（環境価値を他社に譲渡していないもの）は除きます。

ダブルカウント防止措置責任者（プロジェクト代表事業者と同様の場合は記載不要）			
事業者名			印
住所			
代表者氏名		代表者役職	
担当者氏名		担当者 所属部署・役職	
担当者 E-mail		担当者電話番号	
備考欄			

以 上